

ぼくらは
きっと

また逢える

人形劇団クラルテ

銀河鉄道の夜

原作

宮沢賢治

脚色・演出

東口次登



11.14【土】 14:00 - 15:00 開場13:30

延岡総合文化センター 展示室2

人形劇まつり2026

あらすじ

ジョバンニは生活のため、毎日学校が終わると、活版所で活字を拾う生活をしていた。出稼ぎに行っている父親のことで学校の友達からはからかわれていたが、親友のカンパネルラだけは違っていた。ケンタウルス祭の夜、ジョバンニは病気の母親のために牛乳をもらいにでかけると、またいつものように他の子ども達にからかわれる。その中にカンパネルラを見つけると、ジョバンニは彼の眼を避けるようにその場を去り、露のふりかかる林の小道をどんどん登っていった。がらんと空がひらけた真っ暗な丘に体を投げだして星空を見上げると、にわかに大きな汽車の音。そしてまぶしい光と共に不思議な声が響く。

「銀河ステーション、銀河ステーション」
気がつくとな隣には……

人形こそが「生と死」を演じる

脚色・演出/東口次登

「銀河鉄道の夜」の車窓から見える風景は、今までに書かれた賢治童話のそれぞれの1シーンがメビウスの輪のように繋がった映画のフィルムのようにも見える。それはきっと、賢治の作品は「生と死」がテーマであり、銀河鉄道はその「生と死」の境界を走り続ける永遠の汽車の旅だから、全作品とシンクロしているのだらう。そのうえ賢治の言葉は理屈っぽく無く、心象風景が映像となって浮かんでくるような想像の世界になっている。この想像世界をドラマとして表現出来るのが人形芝居の最も得意とするところだと思う。（ここで言う想像とは映像的意味合いではなく、心象風景として）

人形はそのままではただの死体にすぎない。人形遣いが魂を込めることによって生命を持つ。つまり人形芝居は死から始まるドラマなのです。「生と死」を描くために生まれたととってもいいでしょう。今回は特に皮膚感覚のない和紙で人形を作りました。それは肉体から遊離した世界、ココロと感覚の世界を描こうと考えたからです。きっと賢治の心象風景を表現してくれるでしょう。

主人公ジョバンニの友だちカンパネルラはザネリを助けようとして川に落ちて死にます。ジョバンニがカンパネルラの死を知るのは最後です。観客は前半で知ります。つまり観客は「生と死」の境界をずーっと観る仕掛けになっています。私たちは老人や年配者が自分より先に死ぬであろうことは予測できます。しかし、年少の友だちが死ぬとはどういうことだろう？予測し得ない「死」ほど劇的なものはありません！本当に生とは何か、死とは何か感じざるを得ません。言葉では説明できない感覚の世界、それが「銀河鉄道の夜」です。

死から始まる人形たちは、いつも生きることに飢えています。ジョバンニやカンパネルラが問う「ほんとうのしあわせ」は、人形たちの願いとほんとうに一緒です。



銀河鉄道の夜

原作	宮沢賢治
脚色・演出	東口次登
美術	永島梨枝子
音楽	一ノ瀬季生
照明	永山康英（永山照明事務所）
舞台監督	松原康弘
写真	田嶋 哲（スタジオ・パール）
宣伝美術	泉屋宏樹（iD）
製作	古賀恵子

出演者

高平和子	永島梨枝子	松原康弘
梶川唱太	宮本 敦	竹内佑子

入場料 9月2日（水）発売開始

前 売／大人3,000円 子ども2,000円（小4～高校生）
当日券／各＋300円 ※小学4年生から入場可

前売券完売の場合、当日券はございません
お早めにご予約・ご購入求めください

チケット取扱い

延岡総合文化センター	野口遵記念館
日向市文化交流センター	門川町総合文化会館
延岡市役所売店	西村楽器延岡店

お問合せ／チケットお申込み

のべおか風と土の学校
080-2895-2692



人形劇団クラルテ PROFILE

1948年、戦後間もない大阪で、男子高校生たちが立ち上げる。クラルテはフランス語で「光」を意味する。幼児から大人まで、夢と希望と生きる力を届けたい、と全国で公演を重ね、今年で創立72年。2019年公演「女殺油地獄」において、令和元年度（第74回）文化庁芸術祭演劇部門 大賞受賞。